

塾案内目次

(数字はページ)

○ Lesekreis(レーゼクライス)とは	1～11
------------------------	------

(『本当の厳しさ』とは・どういう人が向いているのか・塾の日シンポジウム2019倉敷大会・君たちはどう生きるか・学びの姿勢・理想こそが現実を切り拓く・私たちの目指すもの・何のために勉強するのか・教育基本法の改悪・人間として・学校5日制と教育基本法・本当の『新たな理念』を求めて・病んだシステム・いじめをなくすには・より深刻な状況の中で・共育の普遍性・教育状況)

○ Lesekreis方針	12
---------------	----

○ レーゼクライスの歴史(概略)	13～17
------------------	-------

○ 講師紹介	18
--------	----

○ 塾生の点数分布及び進学状況	19～20
-----------------	-------

○ 塾運営費について	21
------------	----

○ RT(個別)/CL/テキスト	21
------------------	----

○ 入塾申込及び入塾試験のご案内・問い合わせ先	22
-------------------------	----

○ レーゼクライスへの略地図	23
----------------	----

Lesekreis (レーゼクライス) とは

ドイツ語で直接的には**読書グループ**という意味であるが、Kreis(輪)の本来の意味に即して、「教える－教えられる」という形を越えて、真に自主的に学習する塾生たちとの輪の中から、共に学ぶものとして、真摯なる**反省的精神**に支えられた学習方途を見出し、不正を憎み、真に平和で差別のない民主的な社会創造の核としての発展を願い、名付けたものである。

◎『本当の厳しさ』とは◎(2021年1月)

子どもたちにとって「体罰」(長時間の居残りや暴言も含まれます)は、決して「厳しさ」の表現ではなく、**許されざるものだ**ということがやっと当たり前のことになってきました。部活の場や様々な活動の中で、体罰に関するニュースも氾濫しています。レーゼクライスは開塾して42年が経過しようとしています、**体罰は一切ありません**。そもそも「勉強ができない」くらいで体罰を振るうことは、「価値の一元化」に囚われた所業と言わざるを得ません。

学習に当たって、**本当の厳しさ**とはどういうものでしょう？それは、何より誠実であること(嘘をつかない、不正なことはしない)、それらを**自己反省に基づく**自分の意思で実践すること以外にはないでしょう。そして、そうした姿勢こそが「単なる自らの利益」を超えて、**世の中の諸矛盾を止揚する根底的な力**になると思います。コロナで休校になったときも、いち早くオンライン授業を始めました。(3月から開始していたのです！)「学校」はどうだったでしょう？思い出してもらえれば、「学びの場」であるはずの場所の変質も明らかになってくることでしょう。子供たちが継続的に学び続けるにはどうすればよいのかは、ほぼ自明ですから。そうした状況の中で塾に出来ることは何か、また『塾の存在意義』は何なのか、常にそのことを考えて行動し、募集も行っているのです。徒に「学校成績」を求めることはまさに「価値の一元化」さらに言えば「**偏見**」以外の何ものでもありません。私たちは『本当の厳しさ』を求めて苦悶する諸君とともに、「コロナの時代」にも立ち向かっていきたいと思っています。

◎どういう人が『向いている』のか◎(2020年1月)

レーゼクライスで最も重要な姿勢は、**正直であること**、そして勉強する方法は『**原則的学習**』です。嘘や誇大広告に惹かれ、(学校の)「過去問」演習を繰り返すのが好きな人や「体罰」を厳しさと言いくるめる人は向きません。過去問については、すでに何度も書いてきましたし、現実と同じ問題を出している場合があることも分かっています。(学校の問題は集めていますから)しかし、私たちは「過去問」をしません。いかに社会に様々な「否定的要因(嘘・資料の廃棄・責任転嫁・横領・贈収賄・・・)」が満ちていても、それらを認め、その中で自らが「利益」(本当の利益ではなく、目先の利益です)を得ることを断固拒否する姿

勢こそが、『これからの世の中』に大切な姿勢だと思うからです。学校の先生の努力を踏みにじり(オリジナル問題を経年調査したいと思っても、その問題を知っている子がいる!)、学校教育を破壊すると言ってもいい過去問演習に手を染めるかどうかで塾は大別されます。そうしてまで「成績を上げる」ことに意味があるのでしょうか?テスト範囲を隅々まで学習することは苦しいかもしれません。でも、その**苦痛の選択**こそが本当の努力なのです。

◎『塾の日シンポジウム2019倉敷大会』◎(2019年2月)

2019年10月14日(月・祝)に倉敷アイビースクエアで『人工知能と教育』をテーマにシンポジウムを開催します。主催は塾団体としてはわが国唯一の公益社団法人『全国学習塾協会』です。中国四国支部の担当で、私が実行委員長になっています。記念講演は人工知能(AI)研究の第一人者の松尾豊東京大学准教授です。今はその準備にあちこち駆け回っています。彼もそうなのですが、このところあちこちで**卒塾生の活躍**を目にするようになりました。ちょっと病気のことで相談しなければならないことがあり、そんなときも相談できる医師がたくさんいます。生徒から学校の成績を提出してもらうとき、担任の名前に目が行くと、それが卒塾生であることも多々あります。ある子は農業で、また「町おこし」でと、みんながあちこちの分野で『人々の役に立つ』活動をしていることに胸が熱くなります。それは、私たちが日々の活動の中で最も重要視している姿勢だからです。「成績」よりももっとも大切なものがあるんだよ、と。AIの時代にあって、様々な職業の半分がAIに取って代わられるという説もあります。そんな時代だからこそ、『本当に大切なものは何か』という視点から『人々のため』という生き方を原則的に追求する姿勢が重要だと思うのです。「勉強は何のためにするのか?」の解答にもなっています。

2020年度から大学入試制度にも変更があります。それが子供たちの側に立った変更かどうかは横に置くとして、それを「ネタ」にした「商売」が跋扈しています。しかし、どのように制度が変更されようとも、基本的な姿勢が身につければ困ることはありません。きっと自らの力と智慧で勇気と忍耐力をもって、しかし謙虚に進んでいくだろうと確信しています。そのエビデンス(証拠)があちこちで頑張っている『みんな』なのですから。

◎『君たちはどう生きるか』◎(2018年1月)

吉野源三郎さんの「君たちはどう生きるか」の漫画版が100万部を越える大ヒットになっています。レーゼクライスの中学生は、1~2カ月に1冊、読書感想文を提出するのですが、この本は、長い間(塾開設当初よりですからもう38年間!(もうすぐ39年))**中1の課題図書**にしてきました。

今まで数々の優秀作文がありました。そうした作文に共通する内容は『本当のことを知り、正しいことを為そうとする勇気』であったり『自己を見つめる力、自分の頭で考える力』であったりします。それらは、やはり根源的な価値観だということです。そうした価値観のもとに、私たちは『原則的学習』を追求してきました。定期試験対策で学校の過去問をすることは、目の点

数を追うだけでなく、学校の先生の作問努力を踏みにじるものです。いわゆる入試問題の過去問は、「出ない」ことを前提にした学習ですが、定期試験の過去問は(まして特定の先生の出題する問題は)「出るかもしれない」ことを前提にしています。出た場合に「得をする」というアンフェアな心持がそこにはあります。そうではなく、試験範囲を隅々まで学習すること、間違いを謙虚に直す『姿勢』こそが重要なのです。AI(人工知能)隆盛の現代社会にあって、人間として本当の学ぶ姿勢こそが、これからの時代に必要とされているのだと思います。

◎『学びの姿勢』◎(2017年1月)

高校部を開校して31年(開塾してもうすぐ38年)、たくさんの子供たちとの共育(共に学問の道を歩む同志という視点でこう呼びます)を通して、多くのことを学んできました。単に東京大学や京都大学に進学したという子たちだけでなく、『優秀な子たち』の学習姿勢には共通点があります。人は本能的に学ぶことや新しいことを知ることには喜びを感じるものです(そこに苦痛を覚えるとしたら、そこには何らかの阻害要因、例えば親や環境等が必ず存在します)。優秀な子たち(単に「成績」の良い子ではありません)が『分からないことが分かった』、『新しい視点を発見した』ときの輝く表情を忘れることができません。更に、他の子の疑問に『分かっているけど耳を傾ける謙虚さ』を持っています。(その問題はもう分かっているから別のことをしておこう、というのは本当の優秀さではありません。)勿論、そうした子たちを『陰ながら支える』存在(やはり親とか環境等)があることは言うまでもありません。そして、「自分がこうしたいから」ではなく、『どうすれば、何をすれば役に立つのか』という視点を持っています(もちろん、口には出しません。)。私たちは、子供たちの『学習姿勢』をこそ問題にしているのです。(「姿勢をよくしなさい」と言うのと背筋を伸ばしたりします。その姿勢ではないのですが。)

(ここ数年間の、「塾生募集に当たって」の文章を整理しました。(2014年1月))

◎『理想こそが現実を切り拓く』◎(2014年1月)

一昨年の大阪での事件(部活顧問の暴力を原因とする自死)以来、勉強ができなくて(勝てなくて)「たたかれる」、それが「厳しさ」だとするのは間違ったことだという認識が広まり、文科省でも「通達」を出さなければならなくなりました。本当の厳しさは、本人が自ら反省することであり、そこから再出発することが重要なのです。「勉強ができること」や「勝つこと」以上に、子どもたちにはもっともっと大切なことがあります。日本はもちろん、世界の「悲惨な出来事」に思いを致し、それを学習する意欲へと結びつけることこそが本当の「グローバル」な生き方なのです。「たかが勉強」ができないだけで(「学校成績」に唯一至上の価値を置くが故に)、「体罰による解決」を図ることは、「アンフェアな学習方法(定期試験等の過去問演習)」と相まって、子供たちに「間違った思考」を植え付け、再生産されることにもなりかねません。テストを作ったことがある人なら誰でも分かりますが、一定の範囲での「出して確認したい問題」は決まっています。ところが、そうした問題を(場合によっては

先生の努力の結晶であるオリジナル問題を)、やっている生徒がいるというのは、どう考えてもフェアではありません。そういう意味では、定期試験の「過去問」を大量にやらせるというのは、一種の学校教育破壊行動です。それは真面目な努力を否定します。私たちの求めるのは、範囲を隅々まで精一杯学習する真面目な姿勢です。「それは『理想』だ」と揶揄されても、その理想の道に邁進することこそが悲惨な現実を克服する根底的な方途だと思います。

◎『私たちの目指すもの』◎(2013年1月)

私たちの目指すものは、子供たちが学習や読書や様々な活動を通して、友を想い人の痛みや苦しみが分かり、そのことが更なる向上への意欲となる人間へと成長することです。そのような人間になる(正確にはなろうとする)と、テスト範囲を隅々まで学習し、真剣に授業を聞き、間違いをしっかり直すという『原則的学習』をすることが当たり前になります。学校成績は、そうした姿勢の後に結果的に生まれるものです。困難な時代であるからこそ、未来を担う子供たちが、正直かつ謙虚で不正を憎み差別に怒る人であって欲しいのです。最近再び、「体罰」(＝暴力)が騒がれています。暴力は連鎖し暴力を生み、「いじめ」に繋がり、やがて戦争にも繋がるものです。塾開設以来34年間、私たちは一切の暴力を排し、原則的学習に励んできました。それは、「暴力」で「教え込む」ことが子供たちの独創性と自立心を奪う行為に他ならないと思うからです。そうした方途を取らなくても、子どもたちには自主的に伸びる才能があります。そう信じるからこそ『本当の教育』であると思うのです。幸いにして塾生に恵まれてきました。その幸運に感謝しつつ、この姿勢を堅持することを宣言したいと思います。

◎何のために「勉強」するのか?◎(2008年1月)

去年、NHKで明代の「鄭和」の話が放送されました。「鄭和のアフリカ艦隊」に関して、中国の交易船がアフリカ沖で難破したそうです。その乗組員の子孫が(現在)人口七千人余りの島に住んでいるのです。確かに周囲のアフリカ系の人々とは肌の色も顔かたちも違います。そしてその家の娘さんが中国に留学しているのです。遙かな昔の祖先の国に。彼女は今、医学の勉強をしています。「島には医者がないので、病人が出ると大変なことになる。一所懸命に勉強して、村の役に立ちたい。」大学へ行くということはどういうことなのか、その原初的な形を見ることが出来ました。翻って日本、一体何人の子が「自分のため」ではなく「人のため」と願って一所懸命に勉強していることでしょうか。私たちの塾はそういう子たちの集う場でありたいと思っています。学習塾協会主催の「塾の日」式典でチベット出身の音楽家のバイマーヤンジンさんの講演がありました。チベットの現状を話すだけで、それは日本の教育状況への鋭いアンチ・テーゼになります。だからといって恵まれている日本の子供たちを「チベット的」境遇に無理やり入れるという話ではありません。(それは例の「奉仕活動」的発想です。)恵まれているからこそ考えなければならないことがあります。それは、チベットの状況を「まず知る」ということから始まります。勿論チベットに限りません。世界には少しの教育すら受けられないたくさんの子供たちがいますから。そうした事実きちんと目を向け、知ることの中から本当に自主的な自立的な「学ぶ意欲」や「学ぶ目的」が分かるはずで、現代の教育状況の中で、そういうことを塾が、もしかしたら塾だからこそ共有しなければならないと思うのです。

◎教育基本法の「改悪」◎(2007年1月)

教育基本法が「改悪」されました。2002年の「歴史的文書」は、まさに歴史的となつてしまいました。今年からは誰が決めたのか分からない「公共の精神」が注入され、「我が国と郷土を愛する」態度も要求されるのです。かの「東条内閣の国務大臣」であり「安保闘争」を引き起こした総理大臣の孫は遂に「憲法改正を問う」などということも言い出しました。忘れてはいけないこと、『本当に大切なこと』は何なのか、それを知ること、正確には知ろうとする学習姿勢を身に付けることにこそ、本来の学習の意味があります。「旧」教育基本法を心の支えとして、それこそが歴史的使命と認識し、頑張らなければと考えています。

◎人間として一本気の勇氣とは◎(2004年1月)

「二世三世国会議員」による「政府」の行為によって、再び戦争の惨禍が訪れようとしています。そうした時代の中で、日々の繁忙さを感じてはいても、学習することの意味を忘れることはできません。このような時代がなぜ到来し、その中でどう生きていくべきなのかは、学習することによってしか解答は与えられないでしょう。様々な「感覚的判断」(「やりたいから」とか、スポーツなど「好きだから」とか)の虜となり、結果、「戦争」を支持するのではなく、排外的な空気の中にあっても、先人が掲げた理想の途(憲法前文に顕著です)を歩くかどうかは、人間としての『本当の勇氣』の問題でもあるでしょう。それはまた、他者の犠牲の上での「豊かな生活」を拒否する勇氣でもあり、自己を厳しく律する勇氣でもあるでしょう。日々の営みは小さくても、『本当の学習』をしていかなければ、決して真実が見えるようにはなりません。「成績」や「進学」に囚われるのではなく、それらは結果であり、経過であり、目指すものはそこにはないのです。そのことに気付けば、「権力的存在の正体」や「楽しみだけを追うこと」の無意味さが見えてきます。また、「宣伝」や「嘘」に騙されることも少なくなるでしょう。そうした子どもたちだけが持つ『真摯な瞳』は、きっと私たちの未来を救うものであると信じています。他者の痛みに関心であることからしか『優しい微笑み』は出てこないのです。そのような子どもたちの存在する場として、まだまだ努力をしなければ、と思っています。

◎「学校5日制」と『教育基本法』◎(2002年1月)

今年度からいわゆる「新課程」が始まります。というよりも、「学校5日制」が始まります。教科内容にしても、決して「ゆとり」とか「考える力」のために削減したのではなく、土曜休日に合わせて(その時間的減少の割合で)減っただけでしょう。一方では、「御三家」に代表される「有名私立」には、土曜休日はありませんし、恐らく教科内容もほとんど削減されないでしょう。

そして、ここが重要な点ですが、文科省自身が、「指導要領の範囲を越えて、進んだ範囲を学習してもよい」という指示を出すのみならず、その「指導書」も作ると言っているのです。さて「真意」はどこにあるのでしょうか？

彼らが考えていることをはっきり書きましょう。大多数の「学校」にしがみついた人たち(それは、「学校成績」を異常に気にし—「絶対評価」が変わるというのに！—その順位の

みを至上の価値とする人たちです)には、削減された教科内容で十分だということです。(基礎基本さえできれば、後は極端に言えば、「従順な公民」でありさえすればいいのです。ですから、学習よりも「国旗や国歌やそして国家への忠誠」が注入されることになるでしょう。) 彼らは、今の「学校」が子供たちの才能を伸ばすものでないことを十分に知っているのです。そして、彼らの子どもたちは、塾に通って「より進んだ内容」を学習するか、そうした学習をする「私立」へ進学することになります。そしてまた、学校間にも「進んだ学校」と「そうでない学校」を「自由化」の名の下に制度として導入してくるでしょう。もちろん、学校教師に対しても、「評価制度」の導入とともに、一種の「選別」が行われるでしょう。いわゆる「現状の社会階層」の固定化の進行です。そもそも「教育」とは一体何なのかを考えてみなければなりません。

少し長くなりますが、『教育基本法』の序文を引用しましょう。

『われらは、さきに、日本国憲法を確定し、民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする決意を示した。この理想の実現は、根本において教育の力にまつべきものである。われらは、個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する人間の育成を期するとともに、普遍的にしてしかも個性ゆたかな文化の創造をめざす教育を普及徹底しなければならない。ここに、日本国憲法に則り、教育の目的を明示して、新しい日本の教育の基本を確立するため、この法律を制定する。』

果たして、この内容を変更する必要があるでしょうか？そして、変更後に来るものが何であるのか、容易に分かるでしょう。日本国憲法の「改正」です。何をか？もちろん、第9条の変更です。中には第9条に触れることもなく、「感想を述べる」人々もいるので(この拙文が「歴史的文書」になる可能性もあるので)、第9条も引用しておきましょう。

『①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。』

私たちは、「現実」の名の下に、様々なものを受け入れてしまいます。そして、日常の忙しさの故か、あるいは意識的にか、目の前の「改革」にどのような背景があり、真のねらいがどこにあり、どのように動いていくのかにまで考えが及びません。「豊かな生活」の豊かさの根源に想いが至りません。こうした「現状」の中で、私たちは、大人の責任として、何をすればいいのか、子供たちにどう接すればいいのかを自問しながら進まざるを得ません。少なくとも、「個別的な利益」を求める「道具的存在」にはならないことを決意しつつ。

以下の拙文は、1994年から2001年においてまとめた(まさに「塾案内」の作成の度に)ものです。基本認識は1994年度と変わっているわけではありませんし、むしろ、若干の自負を込めて言えば、当時「予測していた」ことが着々と実現している想いがしています。

(なお、㊦は、2002年及び2003年に、付け加えたものです。)

◎本当の『新たな理念』を求めて◎ —新教育課程及び「17の提言」批判— (2001年1月)

懸命に教え学ぶ（この場合、それは子供たちの側だけを意味しない）ことの中にこそ、「生きる力」や「自ら学び考える力」そして、それを土台にした「創造性に富む」力が生まれる（ないし、芽生える）のであって、「生きる力」のために「総合学習」というのは、現状の学びがいかに機能していないかの逆説的表現でしかない。IT教育を標榜することの根底には「科学的認識」の普遍性信仰があるのだろうが、**科学的思考は現状分析を不可欠の要因として持つ**。つまり、「教育の危機的状況」が事実であるのなら、それを数量的に明確に示し、その状況を「引き起こした」原因が何であるかを特定し、その原因を絶つ形で、「新しい」指針を提示しなければならない。徒に「危機」を煽り、「奉仕活動」等の思いつきの指針を提言しても、更には形式だけの「中高一貫」を追求しても何の「解決」ももたらさない。そこに見るのは、ノスタルジーであり、「別の意図」である。（例えば、少年刑法犯のうち、殺人犯については1998年は1949年の3分の1でしかないし、ここ20年来、その数に大きな変化はない。それでも「少年法」は「改正」された。しかも、昨年の12月10日付けの「朝日新聞」によれば、衆議院の憲法調査会が欧州各国の憲法事情を視察した際、行く先々で必ず質問したことが、各国の「徴兵制」であるという。）

「一律主義」を本当に反省するのであるならば、その「一律主義」を押し付け、せっかくの少数の真面目な教師の創意工夫を踏みにじってきたものの正体をこそ白日の下に晒すべきである。そもそも指導する者に創意工夫がなく、子供たちにそれを求めることなど不可能である。つまり、「文部省」（文部科学省）は廃止すべきである。少なくとも「指導要領」の（持つと言われる）「法的拘束力」を廃止すべきである。ついでに「内申書」も廃止すべきである。その「元凶」を放置したままで、いかなる「改革」を叫んでも、それは「改悪」にこそなれ、決して改善にはならない。矛盾は安定の中から生まれ、その矛盾との抗争の中から、**矛盾を根底的に止揚する形**でしか新たな方途は生まれない。今日、「二世三世国会議員」の多さが「政治不信」の一つの重要な要因に挙げられるように、『正当な競争』は少なくなっている。数々の「改革」は、一部の経済的に恵まれた層の一種の「特権」の固定化をもたらすだろう。そして塾が、その「片棒を担ぐ」ことは、「矛盾」を更に助長し、**停滞と社会階層的格差の固定化に寄与するもの**でしかない。

レーゼクライスを巢立った多くの諸君が、「改悪」に手を貸すのでなく、社会的諸矛盾を解消する地平で活躍することを願うとともに、そのような『**原則を固守する**』場でありたいと思う。

◎病んだシステム◎ (1996年12月)

1996年は、「いじめ」の悲惨さに始まり、「沖縄」問題の意識化・「優秀な」官僚・「立派な」政治家の愚行に終わったと言えるだろう。戦後の日本社会を支えてきた**システムそのものが疲弊**している。「教員採用」に殺到する若者達、彼らは、本当に今の教育状況を深く見据えているのだろうか。安定した体制の中からこそ矛盾は生まれる。そして、その矛盾は、根底的な止揚を目指して、動きを止めない。矛盾を先鋭的に感知し、矛盾の止揚に向かった多くの人々を暴力で圧殺し、「金」という「宗教」によって統治して来た「つけ」が、一挙的に露呈し始めている。物言わぬ、黙々と授業に出席する「いい子」は、今度は、国際的な競争

の中で、「独創性がない」とか「意欲がない」と批判され、「個性」尊重の教育が声高に叫ばれ、地域の教育力を奪っておきながら、「地域の教育力」が「いじめ」の特効薬としてまことしやかに述べられる。自らの安定のために「ものを言わせぬ」システムを作り上げたにも拘わらず、そうしたシステムの帰結は悲惨なものでしかない。服装を強制し、生活時間を強制し、はなはだしきは、もともと茶色っぽい髪をわざわざ黒く染めさせる、そういう「学校」の中で、いったいどういう「個性」とどういう「独創性」が可能なのか。にもかかわらず、一方で「(学校の)成績を上げます」「～点上げます」「順番がどうの」等々の愚かな宣伝にも躍らされ、多くの「賢明な」親たちは、その成績のみをわが子を見る判断基準とし、子供たちに「お勉強」を強制する。その一方で、「悪い官僚ね」などと、いっばしの批判を展開する。果たして、官僚を批判する資格があるだろうか。政治家を批判する資格があるだろうか。

◇いじめをなくすには◇ 教員希望者が殺到するのは、「人確法」以来である。そのことの意味するものは大きい。「安定」を求める風潮は、その根底でほくそ笑む勢力に支えられてきた。そして、失われたものは余りにも大きい。どんなに人権を強調しても、どんなに生命を強調しても、鋭い子供たちは、その根底にある「本音」を看破し、屈折した抵抗を試みる。しかし、「安定」した者に、『苦しむ者』の本当の苦悩が分かるだろうか。

いじめをなくすことは、意外と簡単である。「文部省」をなくすこと、教育委員任命制をやめること、そして、「人確法」以前に返すこと（「行革」になる！）である。しかし、より、本質的には、私たち大人が、唯一の価値観とも思えるかの「宗教」を捨てることである。果たして可能だろうか。しかし、不可能であるなら、私たちの、そして子供たちの未来はない。

（注）「人確法」…1974年成立の「学校教育の水準の維持向上のための義務教育諸学校の教員職員の人材確保に関する特別措置法案」。要するに、教員の給与引き上げという優遇措置である。当然のこととして、この後教育現場への「主任制」が導入される。また、時の首相田中角栄は「五つの大切、十の反省」という徳育教育を強調し、そして自らは「ロッキード汚職」にまみれた！）（注）かの「宗教」…いわゆる「お金こそすべて」という考え方。）

◎より深刻な状況の中で◎(1995年12月)

くしくも、かの12月8日に、例の元文部官僚に有罪判決が出た。しかし、かつて大きく新聞紙面を賑わした事件が、「新指導要領」との関連もなく、小さく報じられただけである。私たちの「忘却病」は、どこまで続くのだろう。「診断テスト」も、一方でその成績に一喜一憂するグループに支えられ、不死鳥のように幅をきかせはじめている。月2回となった「土曜休日」も、やはり、ひたすら「長時間練習」と「精神論」を説き、「いじめ」の一種と化している「部活」にその大半が使われている。ただ、指導者の言うことを、ロボットのようには聴く「部活」は、「いじめ」の発生の大きな要因である。そうした状況の中で、黙々と、努力を続ける多くの子供たちのことを考えるとき、頑張らなくては、と思う。

◎共育の普遍性◎(1995年12月)

阪神大震災に始まった今年は、「オウム」・数々の「不正」と殺伐とした社会状況が続きました。そうした中で、今年もまた痛ましい「いじめ」の問題が続き、かの「文部省」ですら、(自己の責任と、根本的な視点を欠いたままで)「対策」を声高に述べなければならなくなっています。恐らく、世の『こころある』人々が気づいているように、「官」主導のもろもろの問題をそのままにしたままで、子供たちの世界のための「正常化」を望んでも、それは、徒労に終わるに違いありません。「不正」を「不正」のままで見過ごし、そうした社会で、自己のみが「豊かな」生活を追求する、そうした「大人」たちがいる限り、子供たちの痛ましい状況には何の変化もなく、ひいては、そうした社会の再生産の「歯車」として、利用されていくことにもなるでしょう。

私が最近強く思うのは、塾に対する、「学校成績」のみを「上げること」、その「道具」として塾を利用しようとする一部の「親」の功利的な要求の強さです。『なぜ勉強するのか』の視点を欠いた、「とにかく勉強しろ」という圧力です。私は、問いたい。なぜ、それほどまでに子供たちに「圧力」を加えるのかと。そのことが、「学校」における「いじめ」に結び付く遠因の一つになることになぜ気づかないのかと。

もし、「大人」たちが、一切の不正を許さず、「長いものにまかれ」ず、『なぜ?』を真摯に求め、(そうすると、子どもの「お勉強」などに関わる時間もないでしょうが)、**本当の『人間としての在り方』**を求めているなら、「いじめ」ととどまらず、殆ど一切の「差別」も、恐らく姿を消すことでしょう。そして、そうした時こそ、子供たちが、本当の意味で、自主的かつ創造的に学習することが可能になるでしょうし、殺伐とした社会を変革し、本当の意味で『豊かな未来』を構築する一員になることでしょう。そして、それこそが、本来『教育』に課せられた**普遍的義務**だろうと思います。

◎教育状況について◎(1994年12月)

共に学ぶという意図を持って一つの運動体としてレーゼクライスを開始するに当たっては、次のような歴史・現状認識がある。

現代の塾が、「学校」との関係の切って成立し得ないことは言うまでもない。しかし、「学校」を絶対視し、それこそが全てであるような姿勢は、過去の過ちを再び繰り返すことになる危険性を十分に孕んでいるように思われる。

そもそも「学校」は、1872年の学制の公布により成立し、近代日本の発展とともに制度として発展してきた。しかし、現在までの120年間のうち、70年間以上は、日清・日露に始まり、「大東亜共栄圏」をとねえ、戦争遂行するという国家主義・軍国主義の注入の場であり、「愛国青少年」育成の場であった。そうした歴史と反省の上に出発した『戦後教育』は、**教育基本法に顕著なように、個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する人間の育成を期するとともに、普遍的にしてしかも個性ゆたかな文化の創造をめざす教育であるはずであった。**しかし、日本は、大東亜戦争を遂行したA級戦犯容疑者を戦後11年で総理大臣にするほどの

国である。(㊟ A級戦犯容疑者…いわゆる「60年安保問題」を引き起こした岸信介) (それは、戦前の体制を全否定し、指導者を入れ替え、今日に至るまで、戦争犯罪の追求をやめないドイツと大きな対照をなしている。) かくして戦前から温存され、継続した「教育観」と官僚組織(更には「教育学者」)が、何の戦争責任を問われる事なく、『理想』を骨抜きにし、国家意志の物理的遂行者として子供達を「飼育」していく政策をとっていくことは必然である。朝鮮戦争、経済の高度成長という状況の中で、ひたすら、経済効率を求める国家による「期待される人間像」が、何であったか。「正しい愛国心」を強調し、「象徴に敬愛の念を持つこと」それが「日本国の独自の姿」とされるに及んだのである。 **杉本判决**を無視した現在の教育行政が、そうした戦後の歴史の延長上で、どのようになされてきたか、ある程度真面目な「教育者」なら、十分知っているだろう。(㊟ 杉本判决…いわゆる「家永教科書裁判」(第二次訴訟：検定不合格処分取り消し訴訟)において、国民の教育権、教育の自主性、行政の不当介入を明確に認めたもの。今日では考えられない内容である。なお、この裁判長がその後どのような軌跡をたどったのかは、言うまでもない。㊟ 2002年11月、家永三郎氏が逝去されました。謹んでご冥福を祈りたいと思います。)

93年度から中学で実施された「新指導要領」は、「能力主義」をうたい、「多様化」を旗印にする。それは、一見ソフトに、人々の心を包めるかもしれない。しかし、そこで言われる「能力」とは何で、多様性とは何なのか。「多様な個別的な能力」の名のもとに、子供達の日常まで管理し、「内申書の上げ方」なる書物の跋扈を許すものでしかない。「ボランティア」を点数化し、「生徒会活動」を点数化し、「部活動」を点数化する、そして、いみじくも、ここ香川県で、全国に先駆けて実施され、全国的に散々の非難を浴び、中止に追い込まれた「観点別学習状況診断テスト」に明らかなように、「テスト」で判断、いや「評価」される「創造性」なのであり、「経済効率」という価値観の下に一元化される「多様性」に外ならないのである。

かつて「侵略のため」という名の戦争が人類史上にあっただろうか。戦争は、常に、「平和」と「幸福」の名の下に行なわれ、そうした政策・国家意志に柔順に従うことが「愛国心」であるとされてきた。現代の、あらゆる分野における点数化・序列化の中で、大学入試をそのままにした上で行なわれる「新教育」に、同時的に強調される「愛国心」が何を意味するかは、もう明らかだろう。そして、この「新教育」を主導した文部官僚(選挙に出て落選した収賄官僚!)を決して忘れまい。今は亡き田中角栄が何を唱えたか、決して忘れまい。そのような「力の論理」の末端たる「学校」に未来はあるか。断じて否である。その中で、青春期をむかえつつある子供達は、人間本来の知的欲求を忘れ、学問の本質から目をそらし、あるいは目を覆い、その中で自分のみが勝利せん、と、せっせと塾に通い、あるいは利己的な行動に身をまかせ、あるいは当然のごとく登校を拒否している。

こうした状況の中で、当初は、その根底的な非人間的制度を温存したままで、スパルタ的な解決法までが(「愛のムチ」として)許容されていた。(昨今の新聞紙上でもまだ見られる)しかし、「共通一次」導入以後の没個性化、多くの登校拒否や高校中退者の増加の中、そして何より、「経済大国」としての地位を維持したい産業界の意向を強く汲んだ文部省は、む

しろ、このような状況を利用し、「個に応じた教育」の甘言を弄し、実は3%の、国家意志遂行のエリート養成のため、「学校」外の機関への「通学」を認めるという形で、不満をそらしつつ、「飛び級」や、公立の中高一貫校の構想も打ち出している。校則の緩和や「内申書」の公開、更には「教育の自由化」など、現代の諸矛盾を一見解消するような方策も俎上に上っている。しかし、**その根底に流れる意志と目標**を見誤ってはいけないであろう。「教科書検定制度」をくずさず、「教育委員」任命制をくずさず行なわれる「改革」であることを忘れてはいけない。「日の丸」をあげ、「君が代」を強制する改革であることを忘れてはいけない。

私たちの力は小さい。ただ、『塾』であるからこそ、できること（もしかしたら、塾という存在形式でしか行なえないこと）を、私たちは追求する。かの『松下村塾』のように、「学校」以前に『塾』は存在していたのである。来るべき困難の時代に真の普遍性と創造性を持った人間の育成を期すことこそが、すべての現代人に求められている。そしてそれは、「学校追随」するのではなく、時代特性を十分に考慮に入れ、絶えず、『教育基本法』の理念に帰ることを意識的に追求することによってしかなし得ないであろう。確かに、『理想こそが現実をきり拓く』のだと思う。

新たな止揚形態は、現実の矛盾の中からしか生まれない。財界や文部省からの上位下達の「学校構造」、あまりに絶対的に見える中から、新たな萌芽が生まれ出ることを私たちは信じている。でなければ、日本国憲法前文の中でいみじくも言われるように、「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こる」ことは、避けられないであろう。

「強制力」を持つ「新指導要領」でうたわれる国際化とは、単に、英語が話せることではない。英語で挨拶し、道案内をすることではない。「豊かな」生活の豊かさの根源に想いを致すことであり、飢えに苦しむ人間を想うことである。そして、それは、戦争の真実を覆い隠し、戦争責任を忘却の彼方へ葬り去ることではない。まして、「愛国心」を強調しながら、莫大な、闇の利益を得ている「政治屋」を許すことでも決してない。**全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有する**視点から、歴史の教訓を忘れず行動することである。本当の『教育』は、そのような国際人の育成にあることは、普遍の真理であろう。たとえ、それが一粒の麦であっても、大きく実る可能性を秘めている。

『塾』の存在意義も、そこにある。1970年代以降の爆発的な「乱塾」の中で、多くの批判を受けつつ現に存在する塾、それは、一面で教育の場としての、「学校」の**相対化**を端的に表している。そして今、誇大広告と営利と、ただこの「現代社会」の再生産の意味しか持たない「塾」の淘汰が始まろうとしている。そうした中で、真に原則を追求する非権力の塾のうちにこそ、本当の教育改革の萌芽がある。今、単に学校を批判するのではなく、**学校をも包摂した形での止揚形態**を射程に入れつつ力を尽くす時であろうと思う。

参考文献 『教育基本法はどこへ』（堀尾輝久）・『日本教育小史』（山住正巳）・『教育の戦争責任』（長浜功）・『体罰』（NHK取材班）・『「戦略」としての教育』（宮川俊彦） その他

Lesekreis 方針

◎基本方針◎

- **学習を一つの手段・契機として、何より人間的成長をはかる。**
- 営利事業としての（あるいは「教育産業」としての）塾経営を放棄する。従って、**剰余金は全て設備の充実に当て、授業料は、必要最小限**に止める。
- 「**学校成績**」を目標とするのではなく、学校成績は、目指すべき『人間そのもの』と『認識力』の向上の後に、**結果的に生まれるものである**。「学力」は、そうした『人間性』の一つの側面であり、塾生が点数・序列主義に立脚する各「学校」変革の核となることを目指す。
- 教科的研究を行ない、より合理的学習方途を追求し、『自ら学ぶ』塾生の主体的学習姿勢を追求する。『真理』探求のため、自ら苦痛を選択できるよう、共に力を尽くす。
- 一方的教授ではなく、塾生の自己認識の深まりを信頼し、塾生との『対話』の中から、絶えず、『よりよき方途』を追求する。
- 『**力及ばずに倒れても、力を尽くさずに退却しない。**』それは、より根源的なものを求め、真理を求め、真実を求める真摯な塾生のいる限り、我々も、そうした彼ら彼女らと共に、我々の意志として提出する言葉である。我々は、単に「成績」のよいことに価値を置かない。**不正を憎み、差別に怒る人間性こそ、求めるもの**であり、現代の殺伐たる状況を根底的に変革する力であると信ずる。
- 保護者諸氏との対話をはかり、あるべき『教育』の追求を共同的に行なう。
- 「学校」を相対化し、超克し、主体的自立的諸個人の『学びの場』として機能するとともに、他のそうした目的意識を持つ塾と連帯する。

◎具体的方針◎

- ① いかなることがあろうと、暴力的措置は行わない。
- ② 市販のテストを使用しない。テキストも塾で作成する。詰め込み式の学習を排除する。
- ③ 教科書による学校の先付け、後追い授業はしない。集中して聞くという学ぶものとしての謙虚かつ情熱溢れる姿勢を要求する。
- ④ 無断欠席は断じて許さない。家庭との連絡を緊密に保つ。
- ⑤ **学年を越えて塾生どうしが教えあい、学びあう。**
- ⑥ 自分の頭で考える。その原因にまで逆上って間違いを直し、ノート化する。辞書をひき、調べる『**原則的学習**』を追求する。
- ⑦ 確実な歴史認識とそこからもたらされる反省的精神の覚醒のもとに、利己主義を排除し、各塾生が共同的に進歩する。
- ⑧ 塾外諸分野諸氏を招き、様々な講演を実施する。
- ⑨ 多くの書物を読むことを薦め、読書感想文の提出と共に、図書室等の環境整備を行なう。
- ⑩ 塾のテキスト等の出版を通じ、塾内の取り組みを公開し、広く、塾外諸氏の協力と批判を仰ぐ。

《レーゼクライスの歴史》（概略）

◇1979年度 (昭和54年度)	4月、坂出市笠指町にて開設。(発足当初塾生数 小6～中3, 25名。) この年の夏、福江町へ移動。
◇1980年度 (昭和55年度)	プレハブ新教室(9畳)増設。卓球大会、ボーリング、おにぎりクリスマス会も懐かしい。
◇1981年度 (昭和56年度)	中学全学年2クラス編成。年度末に青葉町の新教室(新築木造2階建て)に移動。中1・2夏期合宿開始。中1は到達度試験において、塾生在籍中学全て(附属、坂出、東部)において1位。
◇1982年度 (昭和57年度)	小6も2クラス編成実施。中1～3年の夏期合宿。新しいコピー機。初期の(何でも四国で何台目という)リコーのワープロを導入。また、MZ80Bというパソコンも導入。丸亀高校合格者が初めて2桁に。(13名(中3, 19名中。))
◇1983年度 (昭和58年度)	高1クラスを開設する。1教室増築(1階自転車置き場)。飯山に合宿所を建築する。『レーゼクライス新聞』を開始。中2にはA・Bクラスではない1・2組編成。ワープロ2台設置。
◇1984年度 (昭和59年度)	高1クラスの外部募集開始。保護者との懇談等のため、『金曜会』を開始。合宿所のトイレ棟が完成。
◇1985年度 (昭和60年度)	9月、鉄骨3階建の新塾舎(1号館:現本館)が完成。図書室、学習室、生徒用炊事設備等が揃った。高校入試対応の公開『学力コンクール』を開始。高校入試に公立全員合格(丸亀20名、坂出7名)。
◇1986年度 (昭和61年度)	丸亀高校でも学年トップをY君が達成。ワープロがシャープに。レーザープリンター導入。
◇1987年度 (昭和62年度)	『レーゼクライス新聞』の縮刷版を全塾生に配布。新シャワー室が完成。高3は驚異的な進学成績を達成。「レーゼクライス大学生グループ」の夏期講習。1階部分駐車場の新館(現304教室)が完成。
◇1988年度 (昭和63年度)	中3は、到達度テストで附属中学10位内7名。丸高ソフトボール部は史上初めて総体で県優勝。連棟式の合宿所プレハブを設置。附属中1～3年、全学年1位(2学期末)。「大学生グループ」の「夏期質問教室」。高校入試は40名中、30名が丸亀高校に合格。「ファクシミリ」導入。「キャブデンシシステム」を導入。
◇1989年度 (平成元年度)	最新型コピー機を導入する。『レーゼクライス問題集』の書店販売を開始。「自転車泥棒」事件。附属中学の入試が1月に。(募集定員44名中13名合格)
◇1990年度 (平成2年度)	『レーゼフラウエン』結成。「ゼロプリンター」導入。丸亀高校野球部の42年振りの甲子園出場。附属中学の「問題集」問題、「体罰」問題、「葉書事件」。丸亀高校1年の学力テストで、'89年度から、8連勝(つまりトップを2年間に渡って独占。9連勝まで延びた。)第3回学力テストでは、高校2年理系、文系、高校1年でトップを独占。
◇1991年度 (平成3年度) (1991年2月～1992年3月)	学年切り替えを2月に。「フラウエン」は、坂出市の大会で待望の初勝利を劇的な逆転サヨナラ満塁ホームランで飾った。「レーゼクライス通信」を発行。本格的に2次試験講座も開始。専用駐車場の用地を獲得し、「小学部」を独立させた。
◇1992年 (平成4年) 4月～12月	ソフトボール大会を、「飯山総合運動公園」で行う。小5クラスがスタート。初代の予備校部(東大1名、京大2名、名古屋大1名)。「マークシートリーダー」導入。
◇1993年 (平成5年) 1月～12月	塾生数300名突破。1月の「到達度テスト」で中3がトップ5名(附属・坂出・東部・宇多津・丸亀東)。電子編集機導入。新学習指導要領開始。「業者・校長会テスト」追放の動き。坂高クラスがスタート。中1は3クラス編成。『新合宿所』建設(合宿所本館・新シャワー室・新トイレ棟)。8月末の丸高学力テストで高1は上位1位から6位を独占(今までの記録は1・1・3・4位)。「某事件」おこる。何十年振りの国体に合宿所を宿舎に提供(そのチームが優勝!)『ソロ』の子『レク』登場。
◇1994年 (平成6年) 1月～12月	高校「新課程」開始。授業録画用ビデオカメラ設置。5月16日(月)午前7時頃、11年間共に生活した『ソロ』が永眠。丸高2、第1回学力テストで理系は上位5名を独占、文系は1位以下10位以内7名。合宿所は、新食堂・新男子部屋・新台所の整備。第1回の高校部の合同同窓会(50名余り参加)。夏の「異常渇水」。(井戸水を併用。『善意の水』) 11月、『3号館』完成。

◇1995年 (平成7年) 1月～12月	1月17日、阪神大震災。 新しいワープロやコピー機 を導入。5月、『 ミーティア 』(meteor)が登場。合宿所に 講師棟 を建設。丸高1、学力テ3連勝(2、3回は、1・2位独占)、10位内6名。中2附属は1学期期末で10位内7名、1・2学期期末とも、中1坂中は10位内7名、中3附属は第2回診断テで10位内7名等々。12月『 塾学会 』の会合。『 真の共育を求めて～Lesekreisの軌跡1～ 』の出版。
◇1996年 (平成8年) 1月～12月	塾生数400名突破。合格発表の新聞紙面公表が中止に。RTの設定。『 合宿の歩み 』 発行 。塾学会『 学会誌 』作成。高知や北海道の塾との出会い。合宿所に 新男子棟建設 。 食堂を拡張 。熊谷君(東京大)の協力で、『 ダービー 』の作成に成功。コンピューター3台。(3台目は、これも卒塾生の前田君(大阪大)が組み立てた最高速大容量のもの)。 中3附属「診断テスト」における1桁9名!
◇1997年 (平成9年) 1月～12月	「新課程入試」。1月31日 ハーとフー誕生 。2月 丸亀に仮塾舎 。「 フェニックス 」導入。6月 丸亀校の塾舎完成 。丸高1は第2回学テで10位内8名、第3回学テでは同じ8名でも1～4位、6～9位を達成。丸高2も第3回学テで文理ともトップ、丸高3の第4回模擬の文理ともトップと合わせて全学年トップ達成。附属でも2学期中間で全学年トップ。12月「長時間部活」へ文部省通達。 パワー書院 導入。11月高知『くろしお進学会』のソフトボール大会に参加。12月『 ホームページ 』開設。
◇1998年 (平成10年) 1月～12月	センター試験難化(社会の科目間得点調整)。5月 丸亀校に新築小教室 (木造2階建)。合宿「通期」の高3諸君が現れる。(合宿事件)熊谷君の努力で 塾生データベース 完成。フェニックスを坂出と丸亀の教室間に本格導入。11月『くろしお進学会』のソフトボール大会で 2試合続けて逆転サヨナラ劇で優勝! 大掃除は、春に移行。
◇1999年 (平成11年) 1月～12月	センター試験2年連続難化。(塾内は全国平均から最高の上回り。大学入試も順当)1月 丸亀校の敷地の横の土地を取得 。隣接空き地も借用。『公開学コン』中止。5月2日 K君たちの結婚式(合宿所のシャワー室作りがなれそめ。私たちが仲人) 8月 丸亀に5号館完成 。学力テで10位内8名の記録を丸高1が達成。各中学での1位獲得は1年間で15名回数では30回を越えた。 丸亀校でも2名が1位獲得 。「国旗・国歌法」。坂高クラス募集停止。『 合宿の歩み 』の印刷。9月 第3回『塾学会』 。
◇2000年 (平成12年) 1月～12月	大学入試は、大阪5名神戸4名を初め東大・京大以外は概ね順調。高校入試は定員減にも拘わらず 丸高46名合格を記録(63名中) 。「得点開示」始まる。「訪問販売法」や「少年法」の「改正」。 丸高野球部の春・夏甲子園連続出場 。(春は「大敗」。夏は合宿所から「バス」で甲子園へ)合宿所に「 保健室 」新設。11月2年ぶりに『くろしお進学会』のソフトボール大会に参加(優勝) 高1の学力テでの連勝(トップ)が5 に。12月「ケーブリンターネット」を導入。
◇2001年 (平成13年) 1月～12月	大学入試は医薬系が難化。高校入試は坂高が難化。 小学校への英語学習導入 。読書お話教室と「小学生の英語」を始める。 塾舎全てにブロードバンド導入 。生徒用コンピュータ数は全部で12台(塾内では28台)。9月世界的な大事件が起こり、戦争が始まった。 第4回塾学会 が3号館を会場に開催(約50塾参加)(2日目は高知)。2台目のリソグラフ導入。12月「旧食堂」解体。 高1の学力テ連勝は7連勝まで。高2は1～3回連続文理ともトップ 。インターネットを通じて、各地の塾人と連携。
◇2002年 (平成14年) 1月～12月	センター試験の全国平均上回りの新記録(137.2点)。その勢いで大学入試は 東京大4名、京都大2名(現役のみ) を始め大量に合格。 坂出校に高校クラス復活 。学校5日制・新課程・絶対評価が始まる。学力低下問題が浮上。丸高は二学期制に。 最新型コピー機導入 。 合宿所に新教室 を建設。鈴鹿での塾研修会に参加。 社団法人学習塾協会正会員に。丸亀校の駐車場用地取得 。(丸亀校敷地は400坪を越えた。)
◇2003年 (平成15年) 1月～12月	センター試験の全国平均上回り138.4点。坂高の復活クラス2年目、 高1は「実テ」3・4回連続トップ。丸高1も定期テスト8クラス中5クラスでトップ。高2文系は学力テ4回連続トップ 。高校入試は不調。 第5回塾学会(札幌) に参加。合宿所に 新南教室建設 。大規模なテラス整備。9月「 新マークシートリーダー 」導入。また、塾舎全てに フレッツ・コミュニケーション 導入。1996年に製作のPCが引退。
◇2004年 (平成16年) 1月～12月	センター試験の900点満点大学増加。理系は難化。高校入試で県教委の問題ミス(全員正解に)。 坂高2文系は全てのテストで連続1位。丸高2文系は学力テ1・2回、理系は3回でトップ。丸高3文系は模試連続1位(1・3・4回では1・2位) 。合宿は初日と最終日に大雨洪水・暴風・波浪・高潮警報! ゴミを回収業者に委託 。台風による警報で授業の休講が5回!。11月、本館・3号館に Bフレッツ導入 。各館のコピー機をすべて新しく。また、 カラーコピー・カラーレーザーも設置。5号館学習室に個別机設置 。新潟地震・スマトラ地震など自然災害が頻発。大晦日には大雪。

◇2005年 (平成17年) 1月～12月	大学入試は、東大5名等華々しい結果に。高校入試も定員減(丸高280名)の割には健闘した。4月に5号館新学習室完成。中1での「異常な部活」問題。本館の大改装(8月完成)。3号館外壁も補修。合宿所トイレの半数を「洋式」に、「タンク台」も大補強。グラウンドには大規模なフェンスを設置。丸高1は学テ3連勝。J R列車事故等や「子供にまつわる事件」も多発。市町村合併が続き飯山町も丸亀市になった。渇水かと思えば一夜にしてダムが満水になった。異常と思える気候が続いた。
◇2006年 (平成18年) 1月～12月	「新課程」入試。センター試験は易化。過去最高の「上回り」と得点率(82.1%)を記録。初めての東大理Ⅲ合格者。小4クラス開始。「塾長ブログ」を7月から開始。全国の様々な塾を知った。合宿所に「お客様」。今後ともいろいろな塾との交流は続けていきたい(K西君の結婚式にみんなで静岡まで車でいった)。高校の「世界史未履修問題」が表面化した。各学校の席次トップの者が常時10名くらいはいるようになった。
◇2007年 (平成19年) 1月～12月	センター試験大幅に難化。平均は74.4%で順調に合格。高校部開設以来22年間で東大・京大への進学者がそれぞれ30名を越えた。また「北海道・東北・一橋・東工・名古屋・大阪・九州」への進学者は95名、「慶応・早稲田・上智・I C U」は40名、医学科への進学者も30名を越えた。坂高の募集定員が240名になり難化。合宿所には広い駐車場ができた。丸高1での学力テの連勝を始め、成績的には中高ともよく頑張っている。「戦犯の孫内閣」が途中で政権を投げ出した。次々に「偽」が発覚し「事件」が頻発した。10月には松島(宮城)での塾の日フェスティバルに参加。丸高は3学期制にもどる。
◇2008年 (平成20年) 1月～12月	大学入試で「1点差」現象。センター平均は77.1%。「不況の時の理系難化」現象。丸高の6月の学力・模擬テストでは、高1・高2理系・文系・高3文系と4人がトップ(従来の記録は5名!)。中学生でもトップは勿論、5教科450点以上の人数は11月時点で33名。特筆すべきは各種の農作業。桃の摘果・たまねぎ・じゃがいも掘り等。来年の合宿用「たまねぎ」植えも行った。卒塾生でもありスタッフでもあるE君が結婚。ソフトボール大会・夏期合宿などは平穩無事に終えることができた。今年の内閣は福田。そして投げ出して麻生に。国民の信を問わないままで。2009年にはまた代わるだろう。
◇2009年 (平成21年) 1月～12月	センター試験難化(平均は72.9%)。医学科進学者が計40名を越えた。丸高3模試では(4回中)文系は全て、理系は3回トップ。高校入試に自己推薦制度(4名合格)。高3のAさんは高1からの全てのテストで1位という新記録を達成。丸亀校中2は1年の診断テで平均点が200を越えた。5月、有限会社から株式会社に。農作業が本格化。夏期合宿中の食事に提供。ナスなどは中学生に進呈。今も大根・白菜・キャベツなどたくさんさんの野菜を栽培。合宿所の食堂床・接続通路改修。9月民主党新政権が誕生。塾の日は尼崎で京大の西村教授や灘の校長の講演。12月コロが永眠。
◇2010年 (平成22年) 1月～12月	センター試験は史上最難。塾平均は69.6%。丸高からの東大合格者はAさんだけの1名に。医学部難化(2名合格)。高校入試で丸高・坂高が1クラスずつ増えたが丸高は初めて定員割れ。坂高も実質定員割れ。公立全員合格に後1名!ソフトボール大会の直前の寒波。ジャガイモも長雨でほぼ全滅(植え直し)。農作業はほぼ副業化。4月、レクが永眠(16.5歳)。猛暑の夏期合宿では男子棟南に大規模なテラスを設置。7月から新しいマスコット犬コロが登場。10月父が死去。「塾の日」は伊勢。丸高1も定期試験は3クラスでトップに。個別学習用にメビウス導入。厳冬。
◇2011年 (平成23年) 1月～12月	センター試験塾内平均70.7%。医薬系は難しい(医2薬1)。高校入試では丸亀・坂出とも1クラス減の中、丸亀35名合格(定員280名。塾生50名)。1月早々祖母死去(102歳)。3月11日1000年に1度の東日本大震災が発生し(M9)津波で大被害。その日エールたち7匹の子犬が誕生(たくさんの里親さんが出現)3月「ウロコ先生」が突然死去。大掃除・ソフトボール大会は順調。5月に「大雨・洪水警報」発令!夏期合宿は日程調整等に苦労。9月ハーちゃん永眠(14歳8ヶ月)。第6回塾学会が松山で。10月長崎で「塾の日」。姜尚中氏等の講演。吉野ヶ里遺跡も見学。1年間の各種テストのトップは37回(連続は高2理系の学テ)。農作業は日々続き無料配布も続いた。
◇2012年 (平成24年) 1月～12月	センター試験得点率74.5%。理系は順調。高専5名!大掃除・ソフトボール大会の参加者が少ない。飯山校新設(4月から)(2学期末には、中3・中1で学年1位)。5月21日金環日食、8匹の子犬誕生(すべて里子に)。中学の新課程初年度で、各種テキストの作成・更新に追われた。各教科詳細化して「土曜部活」(酷い場合は土日とも)の現在の状況で消化は難しい。夏期合宿は天候にも恵まれた。各種野菜が上出来!10月広島で塾の日。再び平和公園を訪問。旧知の塾長との再会。その時の講師が2007年に政権を投げ出した総理の復活で文科省大臣になった。大阪で「体罰(自殺)事件」が起こった。2012年度は2学期末段階で学校の各種テストのトップは40回を越えている。(学年末で54回!)。高校入試「自己推薦」が主な学校で廃止。

◇2013年 (平成25年) 1月～12月	1月カラー印刷機導入。センター試験は史上最難(平均得点率は70.4%)。高校入試も順調。2月にはまた7匹の子犬が誕生し、今3匹が残っている。ソフトボール大会は久々に「花見」を兼ねた。飯山校に新たに駐車場用地を取得。(敷地200坪余り)。4月、学習塾協会が公益社団法人に。5月2日にミーティア(18歳3か月)、8日にフー(16歳3か月)が亡くなった。5月末にはIさんが正社員に。少雨でジャガイモ栽培に失敗(秋にリベンジ)。「夏期集中学習」を実施。13年ぶりに丸亀高校が甲子園に出場(卒塾生2名)。惜しくも1回戦で負け合宿日程への影響はなかった。「半農半塾」の観を呈す。10月東京での塾の日はMO君だけ。「朝練禁止、週2回休み」の長野県の英断が報道された。衆議院選挙等に違憲・選挙無効の判決。猛暑・厳しい寒さなど、天候が不安定(警報休塾は2回)。母の入院。再び政権交代。
◇2014年 (平成26年) 1月～12月	センター平均得点率74.1%。それもあって現役進学者多数。初めて愛光学園進学者(土佐は今までに2名)。初めて梨と柿の剪定(よく実った！干し柿も作る。桃の摘果作業が大変だった。年末、桃の剪定開始。)3月須原先生(大阪)の35周年記念講演会に参加。灘・東大寺学園などの校長先生とも懇談。ソフトボール大会の翌日が大掃除と順序を入れ替えた。4月新トラクター購入。OSのXP終了で7・8への切り替え。各種農作業も続いた。夏期合宿は雨にたたられ、栄光のユニホーム復活！。オープンキャンパス対策も考える必要がある。夏期集中学習を余儀なくされた子たちもいた。今年も土石流・噴火等で大きな被害が出た。9月高知での進学説明会に参加。公立・私立の先生が同席して懇親会！。2009年のAさんに続いてK君が高1からの全てのテストで1位という記録を達成。12月飯山校にフェンス設置。
◇2015年 (平成27年) 1月～12月	センター試験は難化(平均得点率71.6%)。K君は95.80%の得点率(歴代2位)で東大進学。ソフトボール大会は晴天。4月初めて入院・点滴。「みんなの母親ノア」が永眠。40匹近い子供たちを残して(大半は里子。今いるのは7匹)。タマネギ・ジャガイモは豊作だったが米が不作。桃の摘果・袋かけ・収穫等々も習慣に。卒塾生で東大准教授のM君がAIの権威としてテレビ出演。内閣官房企画官のK君もロンドン五輪関係本を出版。テレビ会議システム導入。6月全国学習塾協会の理事兼中国四国支部の支部長に就任。台風で桃の枝が大量に折れ実も落下し桃不足。合宿中暴風雨でグラウンドのテントが全滅。鳥取の駿英予備校と研究授業。塾の日は京都。「教育の原点を見失わない限り塾は生き続ける」という堀場雅夫氏(故人)の特集に感動。ニュース作文コンクール中学生の部で中2K君が最優秀賞。東京で表彰式。
◇2016年 (平成28年) 1月～12月	センター試験得点率は72.5%。進学結果も良好。センター試験後、5号館で望月君のライブ。来放題コース開設。3月グラウンドに大規模なネットを設置。高校入試も良好。塾長は学習塾協会理事として出張、ソフトボールチームが監督抜きのことも。4月光ネクストに。また3～5号館に洋式トイレを設置(本館は既に洋式化)。兵庫特進館学院での研修会。大風もなく合宿中の桃は足りた。果樹の農薬散布も担当。8月にエール、11月にはパンが国重動物病院(卒塾生)のお世話になり元気に。9月岡山で「Sunshine」の監修者である松畑先生を招いて教育研修会を行った(満席。もっと広い会場が必要。)。10月の塾の日シンポジウムは四日市。四日市の空は綺麗だった！11月にはY君が腰の手術(約2週間で復帰)。朝日新聞の語彙・読解力検定の準会場となり多くの参加(合格者16名)があった。国語や英語の長文化に対抗するためSRJの速読・速読英語を導入。ニュース作文は優秀賞2名佳作3名。
◇2017年 (平成29年) 1月～12月	センター試験得点率は75.2%。多くの合格者を輩出。岡山大は全勝だった(6名)！農作業の忙しさは多岐にわたる。桃の「草生栽培(除草剤を使わない)」に挑戦。多くの方々から美味しいとの評価。「チーちゃん」を引き取った。ソフトボール大会、大掃除、夏期合宿もほぼ例年通り。ニューファイターズは、市長杯(坂出)で18年ぶりの優勝を飾った。9月開催予定の教育研修会(発達障害等の勉強会)が台風で中止に。9月以降日曜日になると雨が続いた。塾の日は佐賀。読書作文コンクール中学生の部でK君が最優秀賞。AIの第一人者のM君(卒塾生、東大准教授)がEテレで12回続く講座を担当した(超AI入門)。11月にフェイスブックを開始し、懐かしい友人や卒塾生と連絡が取れた。多くの卒塾生が各方面で活躍している！塾長は学習塾協会の常任理事になり、忙しさが増した。高2文系は3回すべて、理系は第1回、高1も第2回の学力テストでトップ。2学期期末では中高で12名が1位。長時間部活が問題になり、近々スポーツ庁からガイドラインが出される。
◇2018年 (平成30年) 1月～12月	センター試験得点率は75.5%。その勢いで多くの者が合格。フェイスブックをきっかけにして、約50年ぶり、40年ぶりの再会があった。Y君は東証1部上場企業の社長になっていた。2月の学習の診断(中1・2)はトップ3名。全体的に上出来。坂

	高が難化(丸高は全員合格)。3月長い間ニューファイターズのエースだったS君が突然の死去。その10日後、農作業の(特に桃の)師匠でもある叔父が死去。スポーツ庁から画期的な「部活動ガイドライン」が出されたが、長時間・休みなし・朝練ありの部活が依然続いている。国会に「民間教育推進議員連盟」ができ、部活動や無料塾についての要望書も提出。6月中国四国支部行事として発達障害がテーマの教育研修会を行った。6月末～7月にかけて豪雨。西日本各地に大きな被害が出た(特に岡山・広島・愛媛)。ソフトボール大会、大掃除、夏期合宿はほぼ平年通り(4期は雨にたたられた)。台風休講3回。10月塾の日は東京。前夜祭にも出席。12月、「島おこし」をしているM君の結婚式がありスピーチ。検診結果の異常であちこちの病院を巡った。農作業も要領よくなった(マルチ・トンネル等)が、時間が足りない。成績的には学年トップが40回は越すと予想される。
◇2019年 (平成31年) (令和元年) 1月～12月	センター試験得点率平均78.7%。目標を突破！新学期を3月からにした。(中1の進捗が大変だった。それでも既にトップ経験3名！)新中3は、中2の診断から中3の第5回まで全て、平均点が200点以上を達成！ソフトボール大会・合宿は平年通り(講師棟にもエアコン)。香川県でも「部活動ガイドライン」が出された。6月には衆議院議員会館での議員連盟の会議で部活動の現状・問題点などを話した。何と言っても最大の行事の「塾の日シンポジウム2019倉敷大会」(記念講演は松尾豊東大教授の「人工知能と教育」)の開催のため、あちこち訪問しパンフレットなどあれこれの作成も担った(実行委員長。協賛集めは大変だった。倉敷アイビースクエアが会場。)。前夜祭は宇多津の「塩がま屋」。塾スタッフが総出で店を手伝った。参加者から素晴らしい声をたくさんいただいた。米作りをほぼ諦め、田んぼに桃を植えた(20本！)。8月グーちゃんが事故死(7歳9か月)。合宿所のボイラーなど壊れて取り換えたものがたくさんあった(そういうところに年月を感じる)。個人的には長期間の病院通いが大変だった。9月には人型ロボット(Pepper)を導入し、来年度からプログラミング講座を開講する予定。
◇2020年 (令和2年) 1月～12月	最後のセンター試験は難化した。平均は71.6%。ニュース作文最優秀だったK君の東大合格を朝日学生新聞社に連絡すると、大喜びしてくれた(個人的には、孫が東大合格を果たし、これで親子3代を達成した)。何と言ってもこの1年を特徴づけるものは「コロナウィルス」の猛威である。(今も終息の兆しがない。)甲子園は春夏とも中止。オリンピックも塾の日も1年延期になった。(果たして今年はできるだろうか?)また高校総体やソフトボールなどの公式戦もほとんど中止になった。塾でも、春のソフトボール大会、夏期合宿なども中止を余儀なくされた(宿泊しない1日合宿は行った。合宿所からのオンライン授業実験も行った。各教室に空気清浄機も整備した。)。学習塾協会の理事会などもオンライン。また、学校の休校、緊急事態宣言などがあり、Zoomによるオンライン授業を導入した。(3月に一部開始し、4月からは全面的にオンライン。学校が再開するまで続いた。親子会もオンラインで実施)Zoomは2019年の12月から開始していたので切り替えはスムーズだった。今も3回線確保している(つまり3教室！)。大学の授業は今もオンラインが多い。休校期間中、小中高は殆どオンライン授業はせず、学習進捗が遅れた。農作業はプロ並み。各種野菜や果樹を生産している。相変わらずテスト作りや授業や「修理」で忙しい日々を送っているが、各学年の頑張りに少しは報われている。読書作文では中2のEさんが中学の部の大賞をとった。またたくさんの優秀賞も。ニュース作文でもたくさんのお入賞者が出た。日常のマスク生活や授業でのマウスシールド、玄関での消毒も日常になった。いつになったら平常になるのでしょうか？

講師紹介

スタッフ	出身及び 在籍大学	担当教科、趣味特技
三谷修司	東京大 (代表)	○高校:英・数・国, 中学:英・理・社, 小学:理・社 ○塾長及びHP管理及びPC管理及び「小使いさん」。
三谷佐枝子	愛媛大 (副代表)	○高校:数・国, 中学:数・国, 小学:国・算 ○経理・採用担当。 ○真剣でない者への厳しさは一級品！
山下祐佳里	大阪大 (副代表)	○高校:英・数, 中学:英 ○レーゼフラウエン(ソフトボールチーム)の初勝利の逆転満塁サヨナラホームランを打ちました！
水尾一雅	東京大 (副代表)	○高校:英・数・国・社・理, 中学:社・理, 小学:算・社・理 ○責任感溢れる若者！○塾長代理
三谷揚束	香川大 (副代表)	○高校:英, 中学:数。小学:算 ○ソフトボールやサッカーが得意です。
井原那津美	都留文科大	○高校:国, 中学:国・社・英・数・感想文, 小学:国・社・英 ○読書とアイドルが好きです！
金井紀子	高知大	○中学:国, 小学:社・国・算・英 ○ボランティアで「お話し」(語り部?)をしています。
三谷真琴	立命館大	○中学:国, 小学:国・英 ○子どもの歌が大好きです。○感想文担当。
井筒素子	岡山大	○速読担当 ○子どもの達成感に満ちた笑顔を求めて見守ります。
その他大学生の常勤講師として、竿尾あ(岡山大歯)・高木(岡山大経)・浜田(香川大法)・十河(岡山大農)・西垣(岡山大経)・多田(香川大工)・中川(香川大教)・尾曲(香川大教)・蛭子(香川大経)・山崎(香川大法)		
夏期・冬期・春期等の臨時講師として、亀井(東北大)・根角(大阪大)・白川(京都大)・河田(大阪大)・田中(横国大)・大石(神戸大)・安野(京都大)・山村(京都大)・田所(大阪大)・小野坂(神戸大)・芝野(神戸大)・面下(一橋大)・久保(東京大) 他大学生の協力を得ています。(すべて、卒塾生！)		

塾生の点数分布及び進学状況

◎塾開設以来、私たちは、かの「学校構造」を単に批判したり、逃避するのではなく、現実
は現実として対し、しかも「学力」は、人間の能力の一つの側面であることを強調し
つつ、その現実を乗り越える **自主的・協同的な学習** を追求して来ました。下にあげたの
は、あくまで、そうした営みの一つの結果として提示するものです。

◎中1・2年、「学習の診断」テスト塾内平均点と点数の度数分布(過去5年間)

(このテストを認めている訳ではありませんし、「学校採点」のため、学校毎に採点基準
が異なったりしていますので、点数による比較は難しくなりました。塾のいわゆる「学
力」レベルを示す一つの「**てっとりばよい**」指標としてご覧下さい。)

(※点数については、**問題の難易度**の関係で年度毎の単純な比較はできません。)

《中1》(塾生の平均点)

(点数度数分布)(人)(満点250点)

年度	英語	数学	国語	社会	理科	合計点	～200	～180	～160	159～	合計人数
2015年度	41.9	33.3	34.6	36.9	37.4	184.0	15	12	6	10	43
2016年度	38.5	40.4	38.6	37.1	40.4	195.1	23	8	9	3	43
2017年度	40.1	41.0	34.5	38.3	40.1	194.0	16	8	3	5	32
2018年度	40.0	37.6	36.5	34.9	39.5	188.4	13	8	2	6	29
2019年度	41.4	33.2	37.6	37.1	38.2	187.5	11	14	9	4	38

《中2》(塾生の平均点)

(点数度数分布)(人)(満点250点)

年度	英語	数学	国語	社会	理科	合計点	～200	～180	～160	159～	合計人数
2015年度	36.4	39.3	37.1	36.6	34.4	183.9	14	23	13	8	58
2016年度	31.9	35.3	32.3	41.8	37.4	178.7	9	14	6	9	38
2017年度	40.1	36.7	35.0	39.4	38.0	189.3	19	12	10	6	47
2018年度	42.8	43.4	34.0	40.4	42.3	203.0	19	4	1	2	26
2019年度	37.6	36.4	39.1	38.3	38.3	189.7	13	5	4	5	27

◎高校進学状況(人数)(過去6年間)

レーゼクライスでは、基本的に、いわゆる「進路指導」に類することは行いません。
何より子供たちの意志を尊重します。ただ、過去の塾内成績や進学の**詳しい資料を配布**
しています。

	丸亀	坂出	善一	香川高専	丸亀城西	誠陵	藤井	そ の 他	合計人数
2014年度	21	12	2	4	2	3		坂商・坂工・香川中央	47
2015年度	17	11	2	3	2	1		飯山・英明・香川西(推)	39
2016年度	27	11	6	2		4	3	高松工芸・高商2・皆実(広島)	57
2017年度	21	5	2	3	1	2		愛光・高松工芸2・坂商・坂工・立命館宇治	40
2018年度	20	6	3	3		2	2	高松2・高松工芸・高商・高松桜井・高松大手前・ 関西学院・英明	44
2019年度	18	3		1		3	1		26

◎大学進学状況(高校部開設以来過去35年間の卒業生の主な進学先)

(合格先ではありません！)(計1299名中)

大学\年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	総合計	その他
北海道大											3	新潟3 静岡5 静岡県立2 名古屋工4 京都府医2 京都府立2 京都教育 京都工繊3 滋賀2 滋賀医 金沢5 大阪外語9 神戸市外4 神戸商科 島根5 鳴門教育4 高知6 北九州市立 茨城 奈良教育 三重、鳥取4 香川保健3 高知女子 大阪教育4 宮崎3 鹿児島3 兵庫県立2 大分 大分県立 宮崎公立 長崎県立 防衛2、防衛医 はこでて未来 高知工科3 名古屋市立 広島市立 島根県立 帯広畜産 福島県立医
東北大					1			1			8	
東京大			1	1	1					1	37	
一橋大									1		10	
東京工業大						1					6	
お茶の水女子	1	1									6	
千葉大							1	1			10	
横浜国立大								1			22	
名古屋大		1		1		1	1				18	
京都大		2		1		2		2	2		44	
大阪大	3	1	3(1)	3	2	1	1	2	2(1)		77	
大阪府立大					1						13	
大阪市立大						1					9	
神戸大	2	3	1	1		1		2	1	1	49	
奈良女子大										1	10	
岡山大	3	3(1)	2	3	1	8	6(1)	3	2	4	113	
広島大	1	2	2	1		1	2	2	3	1	49	
山口大	1							1		1	11	
香川大	8(2)	4(2)	3(2)	6	5(1)	1	6	3(1)	3	4	150	
愛媛大						1				1	23	
徳島大		1		2					1		36	
九州大				4	1		1		1		18	
その他 国公立大	東京農工 名古屋市立 京都府立 広島市立 島根(医)		静岡 島根県立 高知工科	長崎(歯) 高知 鳴門教育 防衛	大阪教育2 鹿児島 福島県医 島根	筑波 金沢	神戸市外 鳥取	首都 島根 滋賀県立 県立広島 県立医療 信州	岡山県立 宮崎	県立保医 高知	筑波3 岩手 埼玉3 会津2 東京農工2 東京学芸4 首都4 長崎	
早稲田大	2	1	1	1	2		1		1	2	31	武蔵工業 東海2 I C U4 明治学院 学習院 神奈川2 昭和女子4 同志社女子2 岐阜薬科 京都薬科3 京都外語2 関西外語 近畿7 京都女子4 龍谷3 関西10 東京歯科 武庫川女子5 他
慶応大	1			1							26	
東京理科大					1		1				9	
青山学院大	2									1	6	
同志社大	2	1			1						20	
立命館大		2	1	1		1	1			1	24	
関西学院大		1	2			1					18	
大阪薬科大			1					1		1	9	
明治大			1		2	2					7	
その他 私立大	中央 女子栄養 川崎医療 神戸学院 帝京 駒沢	上智 関西 京都女子 東海 川崎医療3 他5	I C U 川崎医療3 徳島文理 就実、ノ清心 甲南 甲南女 松山 他4	川崎医療2 愛知淑徳 ノ清心 武庫川女子 大阪総合保育	I C U 津田塾 北里 徳島文理 松山 関西	東京歯科 関西 ノ清心	日赤広島 東洋 東京家政 関西	神戸薬科 京都産業 近畿 松山 関西 日本 他2	京都薬科 ノ清心 美作 徳島文理 他1	京都女子 大阪芸術 日赤広島 他1	東京女子3 上智3 立教3 東京女子医 日本女子2 中央6	

※数字は人数。()は、そのうち医学部医学科の進学者。総合計は、高校部開設以来の総人数。

※例えば、2020年は、高3の2019年度生ということである。

塾運営費について (2021年度)

◎レーゼクライスでは、時間や科目による「切り売り」的発想からの脱却を徹底化し、「受益者負担」思想への抵抗の意味もこめ、1997年度より「受講料」という名称を廃止しています。レーゼクライスが、どこからも援助を受けず活動して行くための、協力費としてお預かりし、運営する『運営費』という名称を使用しています。また、事故等の防止、経理の明確化のため、**納入は金融機関経由**です。

☆レーゼクライスでは、運営費のいわゆる「一括納入」の形はとっていません。あくまで**月毎の前納**になります。また、月途中で、万が一退塾となった場合、所定の規定に従って、運営費を返却しています。

☆中学・高校の場合、運営費は原則として入塾年度によって決まります。

(ただし、**2回/週から3回/週への移行、2年から3年へ、などにより変更**します。)

※なお、**年度内に消費税率が上がった場合は、その分上がります。**

《運営費》(金額(月額))※消費税別

○小学校個別 10,000円 ○小学校4年 13,000円 ○小学校5年 14,000円
○小学校6年 18,000円 ○速読コース(外部生 4,545円, 内部生 3,227円)
○中学校 1・2年 20,000円, 3年 21,000円 (飯山校中1・2年 18,000円)
○高校 (丸亀) 1・2年26,000円, 3年27,000円 (坂出) 1・2年21,000円, 3年22,000円

《納入方法》**預金口座振替** 各信用金庫(高松など), ゆうちょ銀行, 各銀行(香川・百十四・中国・伊予など), 香川県内の農協の本支店・出張所。

◇上記以外の金品(入会金, 塾テキスト・テスト代, 中元, 歳暮, 手土産)等は, **一切受領しません。**

◇ただし, 編入学年(例えば, 中学2年生)については, 必要な前年度のテキストについて, 印刷実費を負担していただきます。

◇夏期合宿(中学・高校全員参加)では合宿生活費が必要です。

(一昨年度中学16,000円, 高校19,000円) (消費税別)

◇熱意がある人で, 運営費の面で問題がある場合, **運営費減免制度**が利用できます。(基準は, **各公立学校における授業料減免制度に準じます。**)(※ただし, **塾内成績条件(平均以上)**あり)

R T (個別) / C L / テキスト

◎小・中学部では, 個人的な質問(主にテスト勉強やテスト直し等)に答え, **遅れを取り戻すための「Recover Time」**としての時間を設定しています。(出席は原則として任意。)

◎C L 学習は, “concentrated learning” の略称で, 試験前等, 毎日通塾して集中学習するものです。(指名者)

◎R T・C Lとも, **特別な費用は徴収しません。**

◎レーゼクライスでは, ほとんどの場合, 授業は, **塾作成のテキスト(配布)**で行われます。指定の市販問題集や辞書は各自で購入して下さい。

入塾申込及び入塾面接・編入試験のご案内

レーゼクライスでは、春期講習・冬期講習も行っておりません。(休暇中には「補習」を行います。)

◎入塾申込場所

3号館(坂出校)または、4号館(丸亀校)、飯山校にて。

◎入塾申込受付期間 (いずれも2021年。時間は午後2時～7時。)

- ①新小1～6, 新中1～3, 新高2・3……1月23日(土)～1月28日(木)
- ②新高1……………3月18日(木)～21日(日)

◎入塾面接

具体的な時間は、申込時に指定。

◎設置コース・試験内容等 (学年は全て、新学年)

学 年	坂出校	丸亀校	飯山校	選 考 方 法
小1～3	○	○	○	面接。 (中1はアルファベットもあり)
小4	○	○	○	
小5	○	○	○	
小6	○	○	○	
中1	○	○	○	
速読講座	○	○	○	先着順(各校舎10名程度)
中2・3	○	○	○	基礎学力試験。面接。
高校2年	○	○		
高校3年	○	○		

※クラス定員に達した学年は入塾をお断りすることがあります。

※中学は、全校舎国公立中学生のみ(藤井中学可)。

※高校は、丸亀校は丸亀高校生のみ。坂出校は、坂出高校生のみ(原則)。

◎問い合わせ先 統一電話番号 (0877)46-3064(午後2時以降)

レーゼクライス坂出校 〒762-0035 坂出市池園町2-4

3号館 TEL (0877)46-3064 FAX (0877)44-3589

レーゼクライス丸亀校 〒763-0031 丸亀市城南町100-3

5号館 TEL (0877)25-0753 FAX (0877)58-1172

レーゼクライス飯山校 〒762-0082 丸亀市飯山町川原1037-1

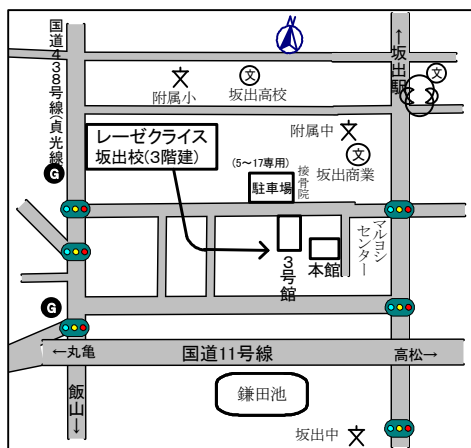
TEL・FAX (0877)98-6390

E mail lese@niji.jp

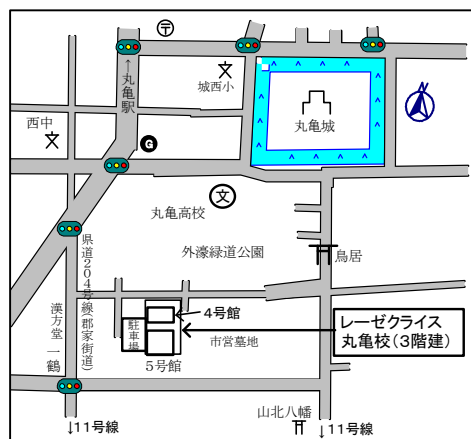
URL <http://www.niji.jp/home/lesekreis/>

レーゼクライスへの略地図

《坂出校周辺略地図》



《丸亀校周辺略地図》



《飯山校周辺略地図》

